



Data

監督・脚本：中江裕司
 原作：ウィリアム・シェイクスピア
 『真夏の夜の夢』

出演：柴本幸 / 蔵下穂波 / 平良とみ
 / 平良進 / 和田聡宏 / 中村
 優子 / 照屋政雄 / 玉城満 /
 普久原明 / 津波信一 / 川満
 聡 / 島袋寛之 / 高宮城実人
 / 中村玲月

👁️👁️ みどころ

沖縄独特の節回しの歌で始まる「真夏の夜の夢」には、妖精に代わってキジムンが登場！さて、キジムンとは？子供の頃キジムンと遊んだゆり子は東京での恋に破れて故郷に戻ってきたが、そこで起きる大騒動とは？美しい世嘉富（ゆがふ）島で展開される心温まる物語は、さてどこまでが現実？そして、どれが真夏の夜の夢？それは、あなた自身の目でしっかりと。

* * * * *

どこかで聞いたタイトルだが・・・

シェイクスピアの名作の2枚看板は『ハムレット』と『ロミオとジュリエット』(?)だが、『真夏の夜の夢』も相当有名。したがって、本作のタイトルを見た時こりやシェイクスピアの「パクリ」では？とつい思ってしまっただが、案の定・・・。もっとも、「パクリ」と言う表現は悪くなってしまうが、森に入った貴族や職人たちと森に住む妖精たちが登場するシェイクスピアの『真夏の夜の夢』の物語を、中江裕司監督とその妻である中江素子氏が大胆にアレンジしたのが本作。

舞台はアテネ近郊の森に代わって世嘉富（ゆがふ）島。また、妖精たちに代わるのは、沖縄や奄美など南東の古い木（ガジュマル）に宿るといふ精霊キジムン。シェイクスピアが1590年代中頃に書いた全5幕からなる喜劇形式の戯曲のストーリーは結構複雑だが、所詮は真夏の夜の夢？映画冒頭には世嘉富島を守るキジムンの王タンメー（平良とみ）が歌う沖縄独特の何ともユニークな曲が流れてくるから、まずはそれに注目。これがそもそも夢？それともこれは現実？さて物語はこれからいかに展開し、ラストにはどんなハッピーエンドが？

あの「キジムナー」は恐かったが・・・

日本は広いから、いろいろな地方にいろいろな幽霊、精霊、妖怪が住んでいても不思議ではない。「初めて明かされる琉球奇譚！」としてそれを実感させてくれたのが、岸本司監督・脚本、田丸麻紀主演の『アコークロー』（07年）だった（『シネマルーム14』373頁参照）。「アコークロー」とは沖縄の方言で昼と夜の間を意味する言葉。「エイリアン」や「あまんじゃく」に対応する沖縄のそれが「キジムナー」で、赤い髪の子は「アコークロー」、すなわち昼と夜の間の黄昏時に出てきて、人間に対してさまざまな悪さをしかけるらしい。したがって、そこに登場したキジムナーはそりゃ恐かった。

しかし、中江裕司監督が描く本作の準主役になるのは、キジムの王タンメーとキジムの女王アンマーハーメー（平良進）の孫であるマジルー（蔵下穂波）だが、マジルーは至って善良。さて、マジルーは世嘉富島でどんな役割を？

主人公はダレ？なぜ世嘉富島に？

本作の主人公は東京での恋に破れて、故郷の世嘉富島に戻ってきたゆり子。子供時代のゆり子を演ずる中村玲月に代わって美しく成長したゆり子を演ずるのは、大河ドラマ『風林火山』で由布姫を演じた美人女優の柴本幸。さて彼女の演技力と頑張りぶりは？キレイなワンピース姿で登場するのはいいが、たった1人で船長（照屋政雄）の船に乗って世嘉富島に戻り、かつての同級生たちと出会うその姿はかなり無防備？聞くところによれば、ゆり子の東京での彼氏だった敦（和田聰宏）には妻がいるらしいから2人は不倫の仲。ゆり子はそれを断ち切るため敦宛の手紙を書き世嘉富島に戻ってきたのだが、何とその島に敦のみならず、妻の梨花（中村優子）まで押しつけてきたから大変。

さらに、手登根権三村長（玉城満）の計画する島全体のリゾート計画や、村長のバカ息子（高宮城実人）の結婚式、そして結婚式のために島の青年会の昭彦（普久原明）、智文（津波信一）、哲夫（川満聡）、弘人（島袋寛之）らが企画する芝居の練習など、狭い世嘉富島を舞台に展開していく物語はシェイクスピアの原作に勝るとも劣らない混乱ぶり？

そんな中、ゆり子の目だけに見えるキジムのマジルーとゆり子はさまざまな心の交流を重ねていくのだが・・・。

マジルーの弥勒節は？マジルーの武器は？

本作は沖縄特有の言葉や習慣、芝居や歌、服装等が登場してくるから、それらをタップリと楽しみたいが、私の目にはポイントが2つある。1つはマジルーが歌う弥勒節（みるくぶし）で、その名調子に注目！もっとも、マジルーはゆり子の目には見えるけれども村民には全く見えないのだから、マジルーが歌う弥勒節は村民たちに聴こえるの？

もう1つは、マジルーが祖父のタンメーから引き継いだ「恋の花の汁」という怪しげ（？）

な液体。一目目薬のようなものだが、これはタンメーが世界中の美女をモノにしようと長年溜め込んでいたという代物。したがって、これを眠っている人間の目に1滴させば、その人間は目が覚めた時最初に見た人間とたちまち恋におちるといふ効用があるといふからすごい。こんな武器(?)をマジルーが駆使したら、世嘉富島の村民たちは一体どんなになってしまうのだろうか？

「真夏の夜の夢」はあなた自身の目で

『シックス・センス』(99年)をはじめとするM・ナイト・シャマラン監督の映画は「決して結末を明かさなさいで下さい」と警告されているが、本作にはそれはない。しかし、本作を鑑賞した人間が本作で観た夢の中身をベラベラと他の人に語るのには明らかにマナー違反。真夏の夜の夢は、観客1人1人が自分の目で観て楽しまなければ・・・。

しかして、中江裕司監督が描く、ゆり子とマジルーの心の交流を中心とした真夏の夜の夢は、あなた自身の目で。

2009(平成21)年5月28日記

羽佐間正雄さん、いつまでもお元気で活躍を！

1969年夏の高校野球。松山商業VS三沢高校の決勝戦延長18回引き分けと翌日再試合を熱狂しながらTV観戦したのは、私が大学3回生の夏、帰省した松山で。その実況中継をしたのが羽佐間正雄さんだ。1954年にNHKに入局した彼は、以降プロ野球、高校野球、陸上、マラソン、ゴルフ、サッカー、スキーなどスポーツ全般の実況を担当したスポーツキャスターの草分け。オリンピックの実況中継は1964年の東京から1988年のソウルまで計11回というから恐れ入る。さらに、全米スポーツキャスター協会国際部門賞第一号で、殿堂入りを果たした唯一人の日本人だから、そんな人は雲の上の人？とところが意外や意外、そんな大先輩と私はここ数年大の仲良しだ。

08年に77歳の喜寿を迎えた彼は『勝者の流儀』を出版し、星野仙一、長嶋茂雄、王貞治、山下泰裕、鈴木大地などトップアスリートの知られざる原点を分析し、今年7月からは雑誌『WILL』で「プロ野球黄金時代を築いたサムライ達」の連載を開始した。その筆力たるや実況中継力、司会力、歌唱力、記憶力、勝負力等々と同じく超一流。とにかく面白い。是非ご一読を！

赤穂浪士に詳しい人は「ハザマ」という姓を聞いただけでピンとくる人も？ そんなスゲエおじさんと親しく交友させてもらっていることを、ここにあらためて感謝！羽佐間さん、いつまでもお元気で活躍して下さい。

2009(平成21)年11月5日記